



豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

ひきこもり支援事業の取組みについて

豊島区 保健福祉部自立促進担当課

豊島区におけるひきこもりに係る支援の取り組み

時 期	概 要
令和2年4月	福祉包括化推進員の配置
令和2年10月～12月	ひきこもり支援の実態調査を実施
令和3年1月	ひきこもり支援の所管明確化
令和3年2月	ひきこもりに関する部署の職員向け研修を実施
令和3年4月	福祉包括化推進員の配置（強化）
令和3年7月	ひきこもり相談窓口の設置
令和4年9月	ひきこもりUX女子会を豊島区にて開催
令和5年3月	ひきこもり講演会（支援者向け勉強会）の実施

ひきこもり相談窓口（電話・メールでの相談開始）

相談体制

【電話 午前8時30分～午後5時15分】

受付：福祉総務課自立促進グループ（2人）

対応：特定非営利活動法人 インクルージョンセンター東京オレンヂ（3人）

アウトリーチ：豊島区民社会福祉協議会（CSW15人）

【来所 午前9時～午後4時30分】

受付：豊島区民社会福祉協議会（自立相談支援事業受託業者：6人）

対応：特定非営利活動法人 インクルージョンセンター東京オレンヂ（3人）

アウトリーチ：豊島区民社会福祉協議会（CSW15人）

※ 休みの管理は各事業者が行い、勤務体制の共有を行っている。

Q 土日対応について

⇒ 保健福祉部土日窓口の出勤もあり、個別の状況に応じて対応するが、基本体制として確立することは検討していない。

Q アウトリーチ支援員のスキル

⇒ ・社会福祉士 ・精神保健福祉士 等の資格を有し、キャリアは10年以上から1年未満と差はあるが、先輩と後輩とでペアになり対応している。

Q 契約について

⇒ 特命随意契約（区⇔豊島区民社会福祉協議会）

ひきこもり支援強化の背景と経緯

福祉包括化推進事業

庁内関係課14課及び関係1団体に福祉包括化推進員を配置し、分野横断的に対応する連携体制を強化することで、複雑で複合的な生活課題を抱える相談者に対し、効果的な支援を実施する。

関係課14課の福祉包括化推進員は福祉総務課自立促進係長の兼務となっており、組織的な位置づけもなされている。

○ 福祉包括化推進員の配置（令和2年4月より開始）

- ① 各課において、相談窓口を所管するグループ（係）の係長を選出。
- ② 月1回集まり、困難事例を共有し、支援のあり方やお互いの役割の確認を行う。

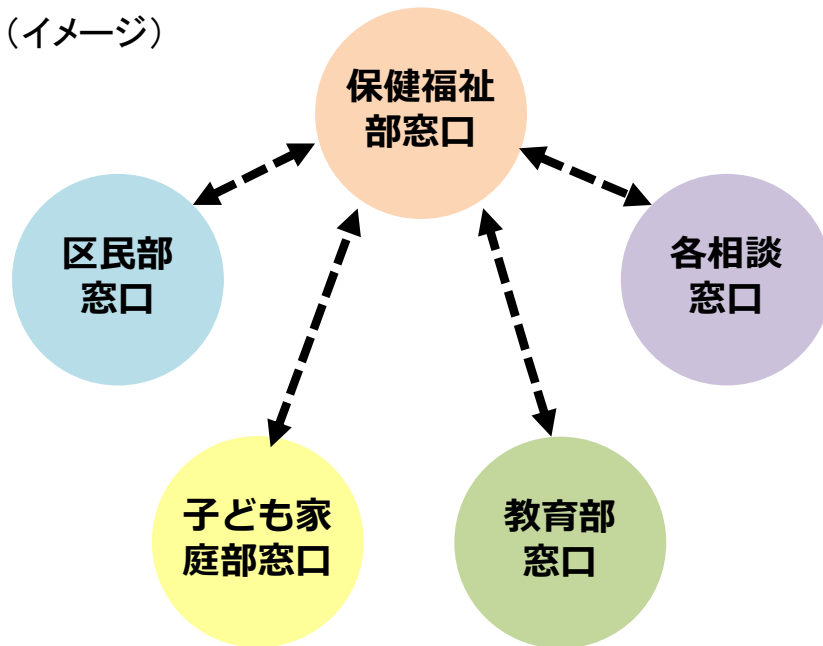
No.	課名	No.	課名
1	保健福祉部 自立促進担当課	9	子ども家庭部 子ども若者課
2	保健福祉部 高齢者福祉課	10	子ども家庭部 子育て支援課
3	保健福祉部 障害福祉サービス担当課	11	子ども家庭部 児童相談課
4	保健福祉部 生活福祉課	12	子ども家庭部 子ども家庭支援センター
5	保健福祉部 西部生活福祉課	13	都市整備部 住宅課
6	保健福祉部 介護保険課	14	教育部 教育センター
7	保健福祉部 健康推進課	15	豊島区民社会福祉協議会
8	保健福祉部 長崎健康相談所		

○ 福祉包括化推進事業の効果

- これまで深刻な困窮状態を見過ごしてしまったり、予防的な措置を取ることができないなど、十分な対応ができないことがあった。
- 福祉包括化推進員に守秘義務をかけ、複雑な現状を様々な多角から検討することで、これまで気が付けなかったアプローチ方法を見つけることが可能になった。

通常の支援体制

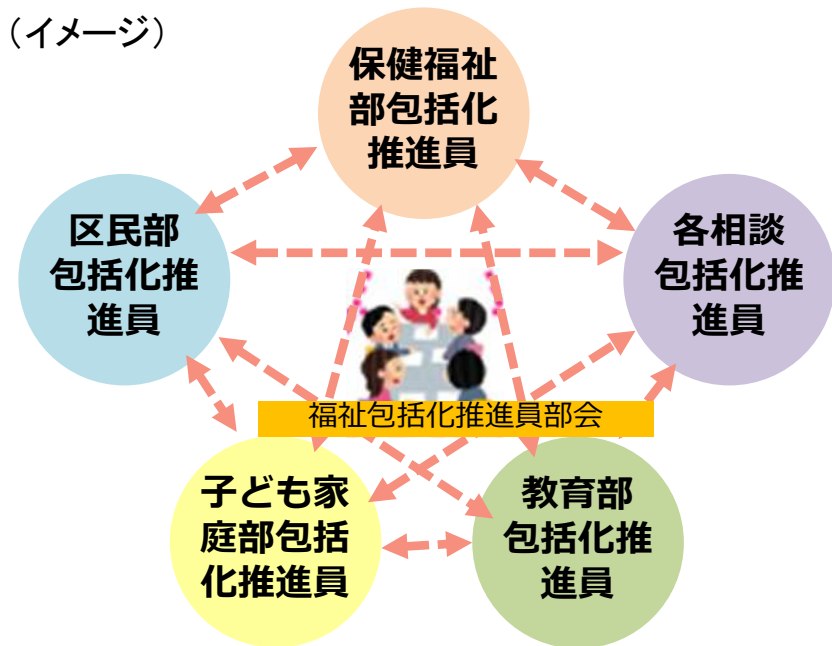
(イメージ)



事案発生時に担当者のマンパワーにより対応

福祉包括化推進員による支援体制

(イメージ)



福祉包括化推進員による連携体制

SDGsの選定について

- 豊島区が「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定

令和2年7月17日、内閣府より、SDGsへの優れた取組を行う自治体として「SDGs未来都市」に選定。

その中で、特に先導的な取組として「自治体SDGsモデル事業」にも選定された。ダブル選定は東京都初である。

- ⇒ 「誰をも受け入れ、誰からも受け入れられ、持続して発展する豊島区」を目指す一環として、ひきこもり支援を強化。



ひきこもり支援の取組みについて

豊島区ひきこもり実態調査について

- (1) 対象 関係10課及び関係団体2団体（※1）
- (2) 期間 令和2年10月～12月
- (3) 定義
- ・すでに相談に来ている方を対象に調査を実施。
 - ・義務教育修了後、仕事や学校に行かず、且つ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態。
- (4) 対象 上記「定義」の状態で、15歳以上の方
- ※ 個人情報保護の観点から、対象者が特定されないよう調査の回答は氏名や住所等は記載することを禁じている。

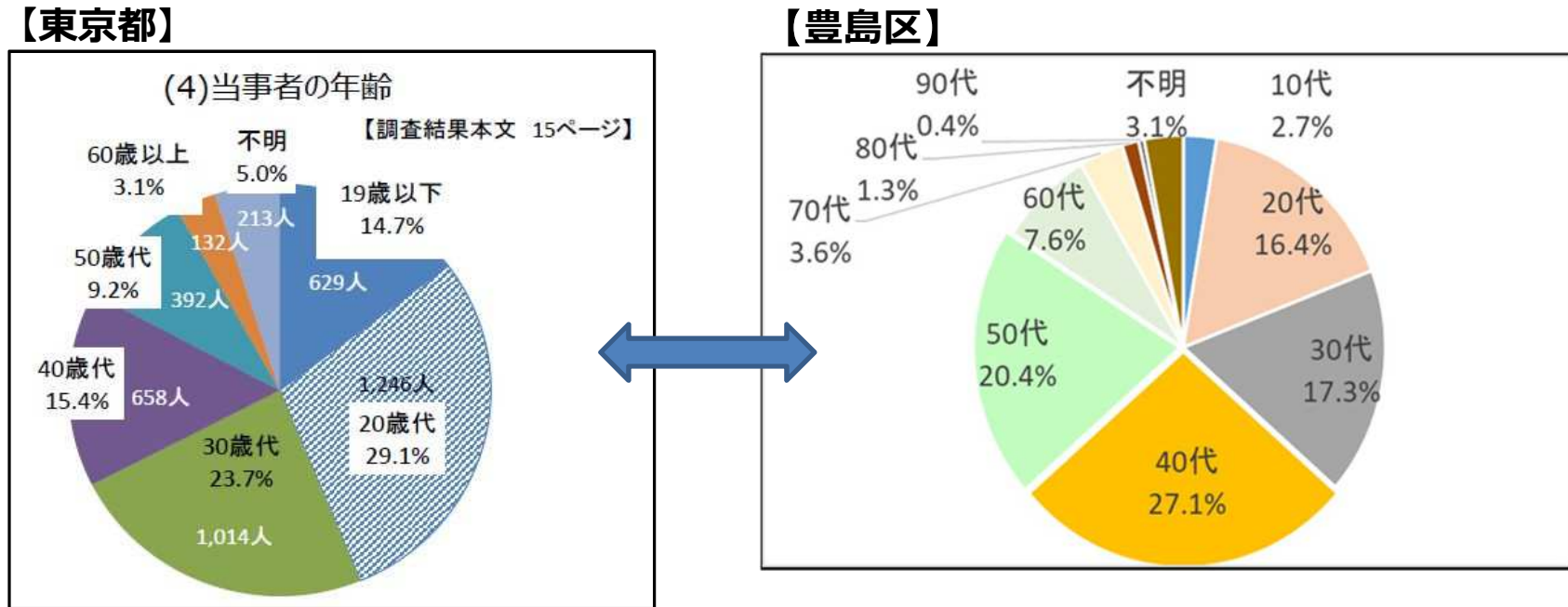
※1

高齢者福祉課	障害福祉課 (東・西障害支援センター)	介護保険課
健康推進課	長崎健康相談所	生活福祉課
西部生活福祉課	子ども若者課(アシスとしま)	子育て支援課(女性相談)
豊島区民社会福祉協議会 (CSW)	高齢者総合相談センター (8か所)	福祉総務課 (くらし・しごと相談支援センター)

 **調査を実施し、各窓口の支援状況を把握することから着手した。**

○ 豊島区の特徴

① 基礎データの東京都比較

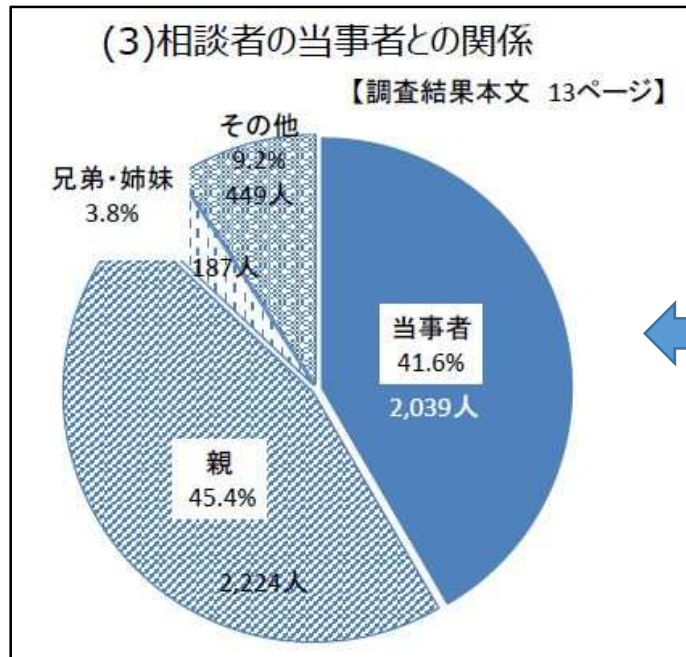


(資料) ひきこもりに関する支援状況等調査結果／東京都

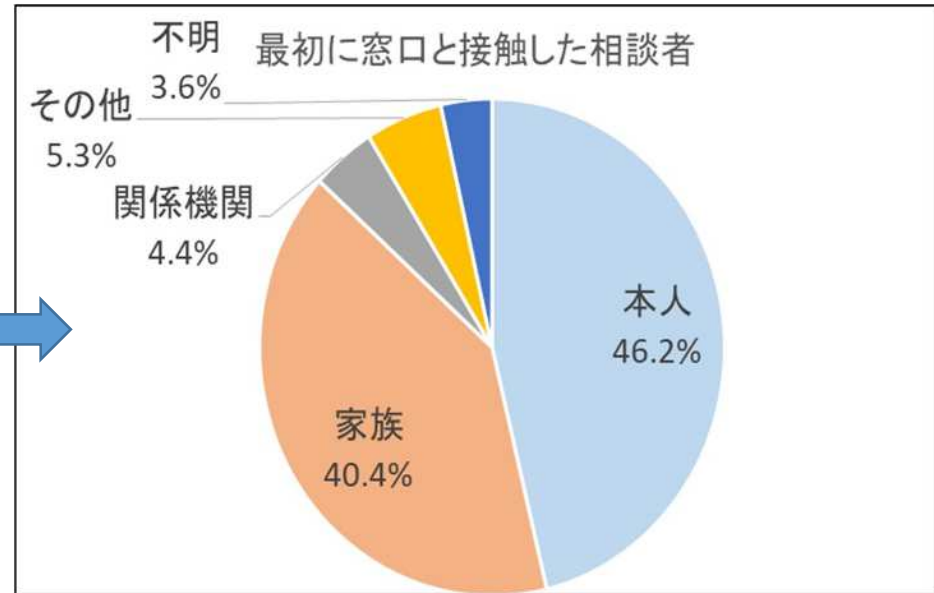
- 東京都は20代・30代の割合が多く、一方豊島区は40代・50代の割合が多い。
- 豊島区は東京都全体と比べ、ひきこもりの中高年化が進んでいる。

② 基礎データの東京都比較

【東京都】



【豊島区】



(資料) ひきこもりに関する支援状況等調査結果／東京都

- 僅差ではあるが、豊島区は本人が相談に来られる割合が多く、東京都は親・家族の方が相談に来られる割合が多い。

○ 調査でわかったこと

- (1) 当事者の約半数が40代・50代。
- (2) 窓口で相談に来られた方は、本人（46%）と高く、次いで家族40%となっている。
- (3) ひきこもった理由は、不明が5割を超えている。

調査結果を踏まえ、取組みを開始

○ 今後のひきこもり支援について

(1) 窓口の明確化

- ・ ひきこもり相談窓口を一本化

● 相談室の風景①



● 相談室の風景②



● チラシ

社会に出たいと思うけれど、きっかけが見つからない…

【ご案内】
豊島区ひきこもり相談窓口

いつの間にか心に障壁が建ってしまった…。もどき連れるのかな…
学校が嫌だ！でも…
両親も心配さなくないから親にも何も相談できず…

★ どうぞお気軽にご相談ください
(窓口) 豊島区役所本庁舎4階 福祉総務課
相談専用ダイヤル
03-4566-2427
(メール) A0029452@city.toshima.lg.jp
(HP) toshima-hikikomori.com
※ キヤンターで状況をお聞きし、適切な機関へおつなげいたします。

親子とも親むけまでの豊島区総合福祉センター 子ども支援課 アシスタント(本庁舎4階) 電話 03-4566-2427	豊島区社会福祉協議会 福祉相談センター (C.S.W.) (豊島区役所) 電話 03-3981-4392
豊島区社会福祉協議会 福祉相談センター (本庁舎4階) 豊島区社会福祉協議会 福祉相談センター (豊島区役所) 電話 03-4566-2427	親子支援に関する相談 豊島区子ども家庭支援センター【児童・育成相談】 【上野原2丁目30-23】 電話 03-5966-6275
豊島区一環する相談 西側子ども家庭支援センター【相談・育成相談】 (西側2丁目6-14) 電話 03-5966-3131	豊島区一環する相談 (心療養・個別) 豊島区子ども家庭支援センター【相談・育成相談】 電話 03-3983-0094

○ 東京都 ひきこもりサポートネットワークでもご相談を受け付けています。
電話 020-636-028 月～金 10:00～17:00
Eメール相談 info@hikikomori-tokyo.jp (24時間受付)
携帯メール相談 info@hikikomori-tokyo.jp (24時間受付)

(2) 相談しやすい窓口

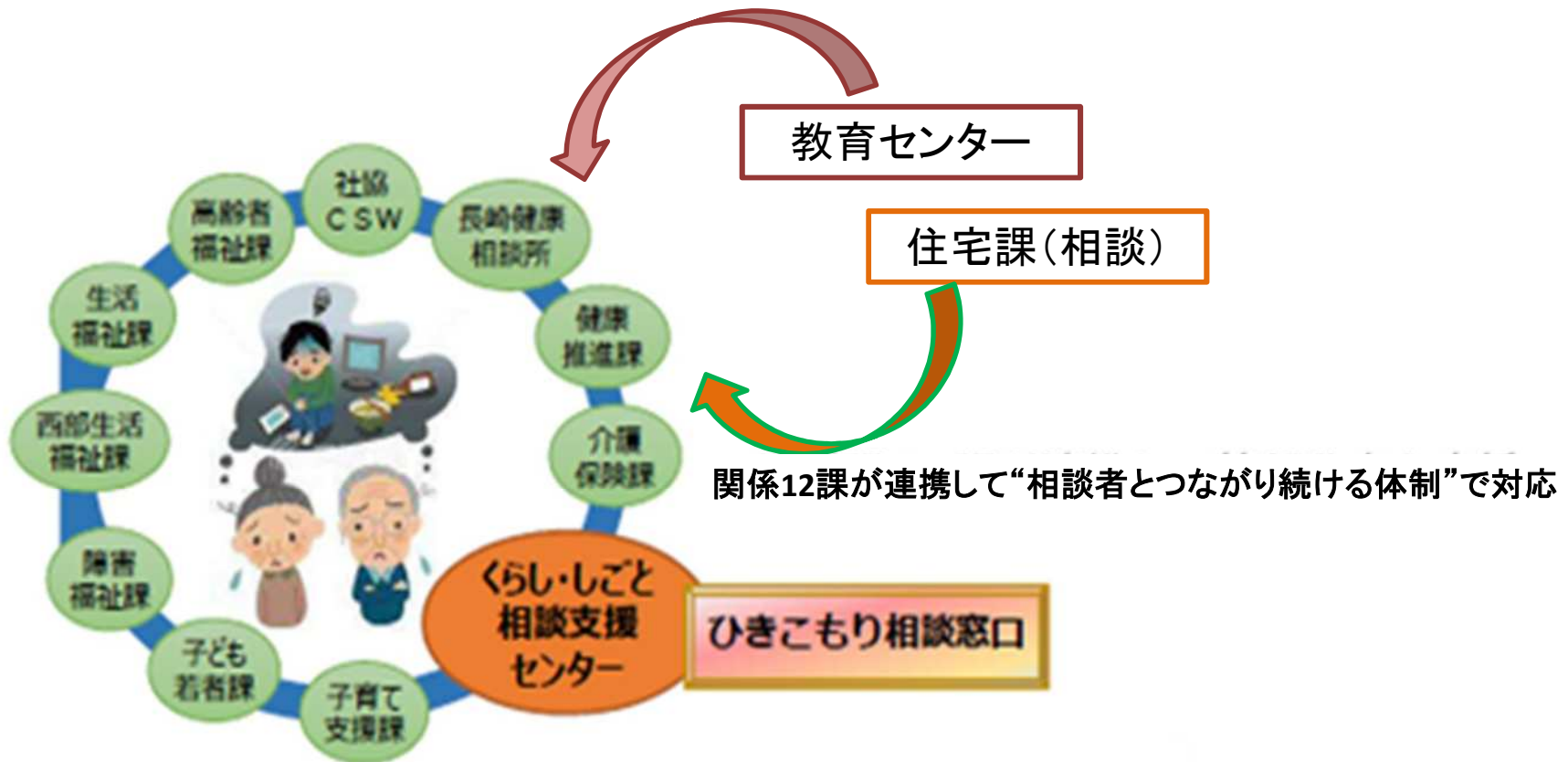
- ・電話、メールでの相談の開始
 - ・オンライン相談を開始
- ⇒ 相談者の状況・状態に応じ対応できる体制の構築を進める



- ★ 相談者に事前にアプリをインストールしていただく必要がなく、送られてきたURLをクリックするだけでビデオ通話（テレビ電話）ができる。
- ※ カメラ機能がない端末では利用できない。

(4)-1連携体制の強化

- ・複数課にまたがる相談を福祉包括化推進員部会にて対応する仕組みを強化



(4)-2 連携体制の強化

- ・ 広域連携事業「生きづらさをかかえる女性支援ネットワーク」へ参加
- ・ 令和4年9月6日に豊島区にて「ひきこもりUX女子会」を開催

ひきこもりUX女子会とは：

ひきこもり状態にあったり、対人関係の難しさを感じている等、様々な生きづらさを抱えている女性自認の方を対象にした当事者会

◎ 文京区
◎ 豊島区
◎ 清瀬市
◎ 調布市

ひきこもりUX会
ひきこもりUX女子会
& ママ会

ひきこもり状態にあったり、
対人関係の難しさを感じているなど、
さまざまな生きづらさを感じている
女性自認の方を対象に、
当事者会を開催します。

2022年度多摩・あしよ広域連携事業

ひきこもりUX女子会

一般社団法人ひきこもりUX会館が2016年6月から開催している「ひきこもりUX女子会」は、2022年5月までに全国各地で150回以上開催し、のべ4,500名以上の方々が参加しています。生きづらさを感じる女性たちにとって、男性の目を気にすることなく話し、交流できる場はこれまでほとんどなかったことから、年齢を区切らない、女性だけで安心して集まれる場が必要とされています。「こんな状態にあるのは自分だけではないか」「なんとかがりかけをつかみたい」と思っている女性たちに一人でも多くご参加いただき、「ひとりではない」と思える場をみなさんと一緒に作りたいと思っています。どうぞお気軽にご参加ください。

ひきこもりUXママ会

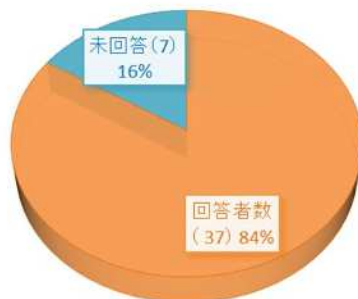
結婚しても、子どもがいても、寂感とした不安や生きづらさがある、みんなら楽しく過ごせない、そんな思いを抱えることがあります。「子どものため」「家族のため」だけではない、今の自分を見つめ、ゆっくりと向き合ったりする時間が必要な方もたくさん。出入り自由のゆるやかな場で、一息ついてみませんか。

主催 | 清瀬市、国立市、武蔵野市、文京区、豊島区、(社)調布市社会福祉協議会(広域連携事業)
運営 | 一般社団法人ひきこもりUX会館

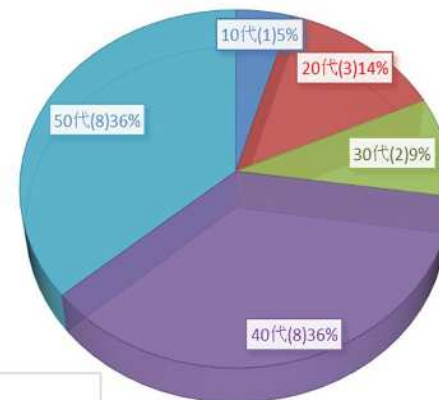
※本会館は、東京都社会福祉協議会(社)調布市社会福祉協議会(マザーズ)と連携して開催しています。

豊島区開催「ひきこもりUX女子会」 当日アンケート 結果

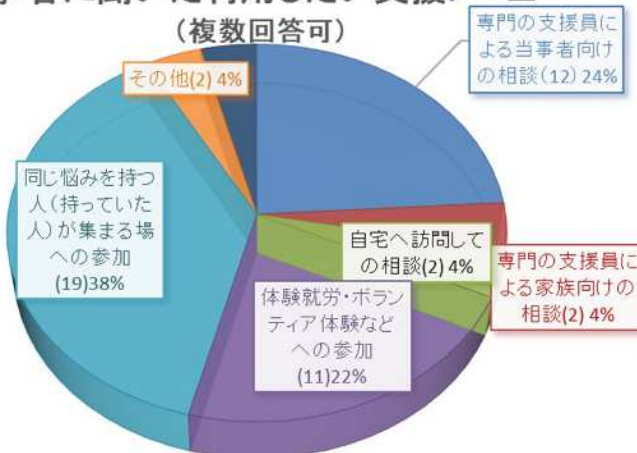
アンケート回収率



年代別当事者数



当事者に聞いた利用したい支援メニュー (複数回答可)



(5)-1 支援内容

- ・アウトリーチ支援員の配置



(5)-2 支援内容

- ・官民連携の支援体制作り
⇒ 区内で活動する団体や企業をネットワーク化し、情報共有や課題の確認

(5)-3 支援内容

- ・ひきこもり支援協議会の設置 ⇒ 次のテーマにてご説明

ひきこもり支援協議会について

ひきこもり支援協議会とは…

(目的)

各課相談窓口において、ひきこもりとなった状態が長期化、高年齢化した相談者が一定数あり、ひきこもり状態にある当事者とその家族が抱える悩みも医療・介護、所得、就労など、多岐にわたることを踏まえ、年齢によらず、当事者・家族の状況に応じた支援の在り方についての検討、特に本区の地域性を踏まえた支援のあり方や方針について検討する。

【令和4年度 第1回ひきこもり支援協議会】

(日 時) 令和4年6月24日 18:30~

(場 所) 豊島区民センター 会議室504

(内 容)

- ① ひきこもり支援に係るスケジュールについて
- ② 令和3年度の相談実績と分析について
- ③ その他

⇒ 当事者に届く情報発信についてご意見を伺った。

(委員名簿)

分野		所属・役職	氏名
学識経験者	社会福祉	文京学院大学 人間学部 人間福祉学科 教授	中島 修
	教育心理	東京学芸大学 教育心理学講座 准教授	福井 里江
支援団体	家族会	NPO KHJ全国ひきこもり家族会連合会 事務局長	上田 理香
	支援団体	NPO ワークスコープ 事業推進本部 事務局長	牧野 斉子
専門家	医療	櫻和メンタルクリニック 院長	山野 かおる
	弁護士	池袋市民法律事務所 所長	釜井 英法
	高齢者	高齢者総合相談センター（包括） ふくろうの杜センター長	深澤 雅世
区民・地域	区民	第6地区青少年育成委員会 会長	根岸 幸子
		民生委員・児童委員	山本 ナミエ
	当事者	—	小杉 順二
		—	小暮 和美
関係機関	保健・医療	池袋保健所健康推進課 課長補佐	松川 君子
	地域福祉	豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課長	田中 慎吾
行政	国	厚生労働省 大臣官房総務課広報室長（社会・援護局併任）	野崎 伸一
	東京都	東京都 福祉保健局生活福祉部地域福祉課生活支援担当長課長	小澤 耕平
	豊島区	保健福祉部長	田中 真理子

ひきこもり支援ネットワーク会議とは…

(目的)

地域でひきこもり支援に関わっている団体との連携を構築するとともに、区内で活動する団体が抱える課題を把握する。

(メンバー)

分野	所属・役職	氏名
家族会	NPO法人 楽の会リーラ 事務局長	市川 乙允
若者支援	NPO法人 S L C (ソーシャルラーニングコミュニティ) 代表	幅野 裕敬
就労支援	株式会社 Meta Anchor 代表取締役	山田 邦生
8050問題	一般社団法人 OSDよりそいネットワーク 共同代表	池田 佳代

⇒ 今後、会議メンバー（団体等）を増やしていく予定。

現時点における課題と今後の展望

現時点における課題

項目	主な内容
(1)当事者の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 就職氷河期世代、不登校経験者、就職後にひきこもる人もいる。・ 親に頼った生活の場合もあり、親亡き後に孤立してしまう可能性。
(2)家族の状況	<ul style="list-style-type: none">・ SOSを発信できない ⇒「恥ずかしい」「他人に知られたくない」。・ 当事者・家族の高齢化が進み、きょうだいにも大きな負担。
(3)関係機関等の現状と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 家族や関係機関からの相談は増えているが、当事者との面談には至らないケースも多い。・ 民生・児童委員、CSWが高齢者の訪問や見守りの中で、当事者の存在を知る

一番大変

相談に繋がっていない方に相談に繋がっていただくこと

【今後の展望（課題に対する行動目標）】

- 令和5年度終了時点を一区切りとし、それまでに豊島区のひきこもりの状況把握・研究を深めること。
- 効果的な情報発信を追究し、誰にでもわかりやすい（相談しやすい）内容で周知活動を行う。
- 本区の特徴は単身世帯が多いため、単身の方が相談しやすい環境を整える。
- 「ひきこもりの状態が問題なのではなく、それにより当事者が悩み・苦しんでいる」ことが問題であることの正しい理解を醸成する。
- 当事者が「この状態を変えたい」と思った際に、相談できる窓口（支援体制）を整える。
- 家族支援のあり方を追求する。